



**特徴:** TEXENSE CAN デバイス, シリアル通信デバイスの  
設定変更ツール

- ・「tWIST」ソフトは無料ダウンロード
- ・全てのWINDOWSバージョン対応
- ・Kvaserインタフェース内蔵
- ・複数のCANセンサを同時に対応

**測定対象参考例:** CAN 又は SERIAL セットアップ

## 仕様:

電気特性	供給電圧	USBから 又は 別電源※1
	USB電源の消費電流	50 mA (センサを接続していない場合)
	別電源の消費電流	30 mA (センサを接続していない場合)
	センサ供給電圧	12V
	USB電源の最大出力電流	150 mA
	別電源の最大出力電流	200 mA
推奨環境	動作環境	WINDOWS XP, 7, 8 or 10
	tWIST ソフト	TEXYSのホームページから無料ダウンロード (下記参照)
	CAN bus 2.0 A or B	120 Ω抵抗の選択可能
	シリアル通信推奨ソフト	Teraterm, Hyperterminal, Putty, etc.
	シリアル通信インタフェース	1 線式 or 2 線式 対応
	シリアル通信電圧	3V or 5V 対応
環境	サイズ	126 x 81.1 x 30.1 mm
	材質	アルミニウム
	IPレベル	IP60
	重量	240 g
	使用温度範囲	-20 ~ 70°C
	保管温度範囲	-20 ~ 85°C

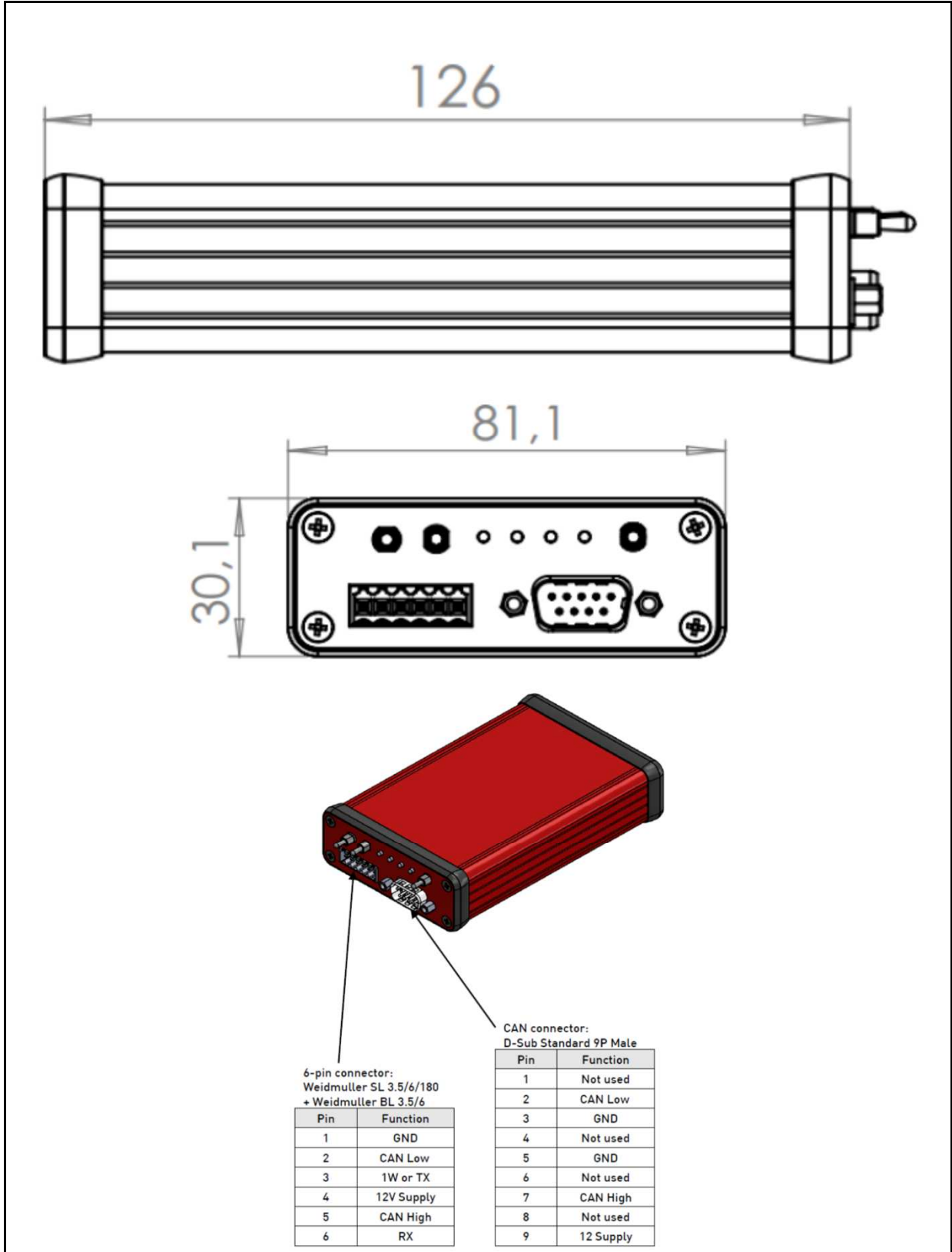
※1別電源は含まれておりません。XP POWER社 の VER12US120-JA の電源を推奨します

## ダウンロード & インストール tWIST ソフト:

下記のリンクからtWIST ソフトをダウンロード& インストール。

<http://twist.texense.com/download/>

外形寸法図:



## tSIB ユーザガイド

### 1. ダウンロード & インストール tWIST ソフト

下記のリンクからtWIST ソフトをダウンロード & インストール。

<http://twist.texense.com/download/>

セットアッププログラムを実行する。※センサと通信するためのサードパーティ・ソフトが同時にインストールされる。

### 2. インタフェースを接続

USBケーブルを使用して、tSIBをパソコンに接続する。※接続したら、LEDが点灯。

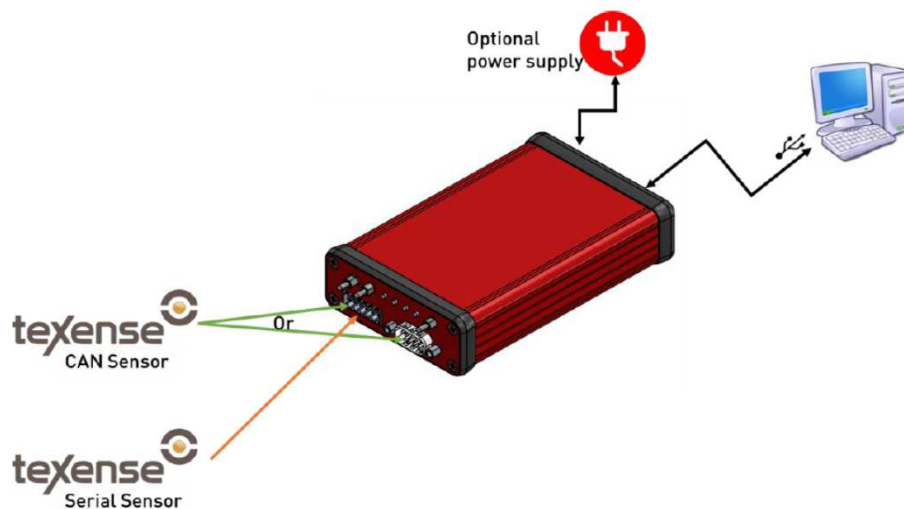
センサの合計消費電流が150mA 以下の場合、USBからの電源供給でセンサを動かすことが可能。

もし、合計消費電流が150 mA 以上の場合、別電源を使用。(XP POWER社 の VER12US120-JA の電源を推奨。)

tSIB は2つのプロトコルを使用してセンサに通信することが出来る。

A. CAN プロトコル。

B. シリアルプロトコル。



### 3. CAN インタフェース

#### A. センサを接続

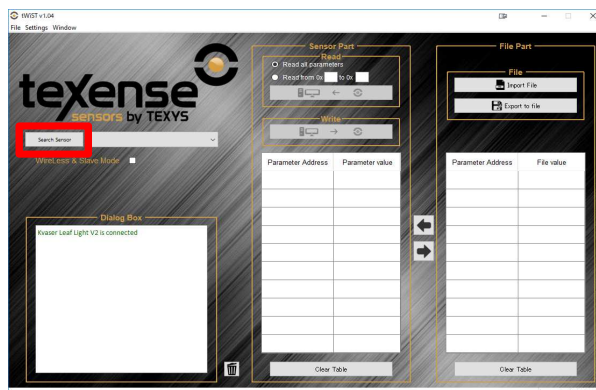
1つのセンサ又は複数のセンサを tSIB に接続する ※ピン配列は tSIB のハウジングに表記。

もし CAN BUS に 120 Ω 抵抗がない場合、スイッチを使用して tSIB の 120 Ω 抵抗を実行することが可能。

#### B. tWIST ソフト

tWIST ソフトを実行する。

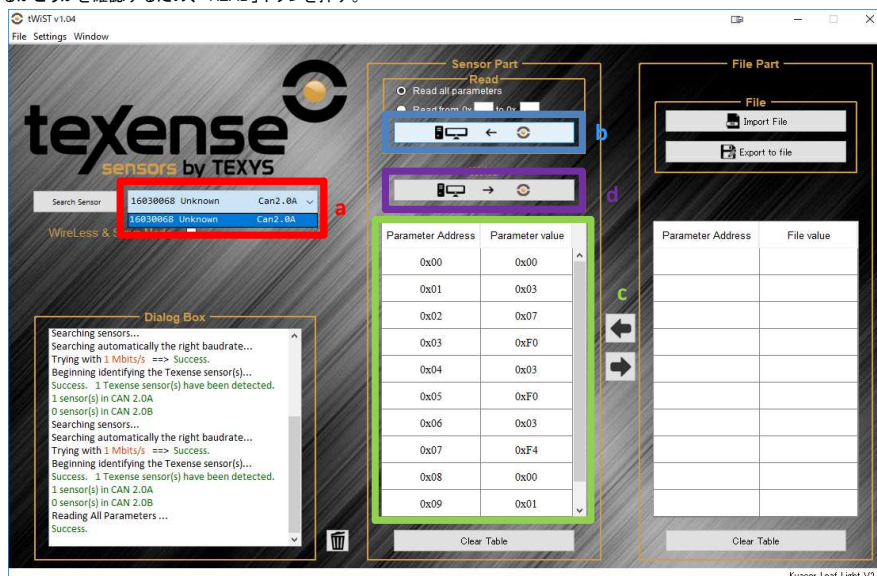
「SEARCH SENSOR」 ボタンを押す。



## tSIB ユーザガイド

SEARCH が完了したら、ドロップダウンリストに全て検出されたセンサが表示される。

- ドロップダウンリストで設定したいセンサを選択。
- 「READ」ボタンを押す。センサのパラメータテーブルが表示される。
- センサのデータシートを参照し、パラメータを変更する。
- パラメーターを書き換えるため、「WRITE」ボタンを押す。
- 変更がされているかどうかを確認するため、「READ」ボタンを押す。



※パラメータ外の値を入力した場合、デフォルト値に自動的に変更されます。

### C. BUS MASTER インタフェース

tSIB に Kvaser インタフェース内蔵されているので、様々な CAN ソフトと互換性がある。

例: リアルタイムで CAN データを確認する為、BUS MASTER (フリーソフト) を使用する。

## 4. シリアル インタフェース

### A. センサを接続

センサを 6 ピン Weidmuller コネクタに接続する ※ピン配列は tSIB のハウジングに表記。

★ センサが 1 戦式シリアルインタフェースの場合、1W/TX ピンに 接続する。

tSIB 側のスイッチ「1W」を選択する。

★ センサが 2 線式シリアルインタフェースの場合、センサの TX 電線を RX ピンに 接続して、RX 電線を TX ピンに 接続する。

tSIB 側のスイッチが「2W」を選択する。

センサのシリアル電圧仕様に合わせるため、tSIB 側 シリアル電圧スイッチを 3V 又は 5V に選択する。※センサの電圧仕様はデータシートで確認してください。

### B. ターミナルインタフェース

センサのパラメータを変更するため、ターミナルソフトを実行する ※TeraTermを推奨。

※センサのパラメータはデータシートで確認してください。

## 5. トラブルシューティング

接続ができない場合:

★ CAN 120 Ω 抵抗 があるかどうかを確認する。

★ 複数のセンサを接続できない場合、先ず1つのセンサのみを接続する。

★ パラメータが変更できない場合、値はパラメーター範囲内にあるか確認する。